

電磁波対策コンポーネントの北川工業

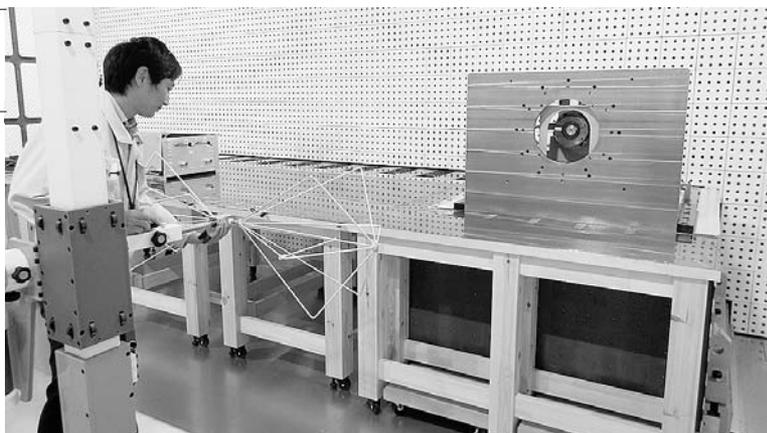
家電製品や自動車向け電磁波対策コンポーネントの製造販売を手掛ける北川工業（本社稲沢市目比町東折戸695の1、平川佳浩社長、電話0587・34・3561）は6月上旬から、電気自動車（EV）向け駆動モーターシステムの電磁波評価サービスを開始する。電磁波の制御方法も提案することで、必要な部品を自動車関連メーカーに供給し売上拡大につなげる。自動車のEV化が世界的に加速する中、自動車分野の需要を取り込む。

（尾張・倉科信吾）

EVモーター電磁波を評価

専用設備導入 対策提案、必要部品も供給

EVチャンバーのセッティングの様子



このほど、春日井事業所（春日井市）のEMCセンターに、EV向け駆動モーターシステムの電磁波を評価する設備「EV-Chamber」



アンテナで計測した電磁波のデータを画面で確認する

member（チャンバー）を導入した。駆動モーターをチャンバーに取り付けてモーターを稼働させ、アンテナで電磁波を計測する仕組み。EVチャンバーの導入は、全国でも珍しいという。

自動車の電磁波はアクセスルやブレーキの制御システム、カーナビ、ドライブレコーダーなどの誤作動を及ぼすこともあるという。電

磁波の制御は自動車の性能や安全性を大きく左右する。

同社はガソリン車の車載部品に加え、洗濯機やパソコンなどの部品の電磁波評価も手掛けており、電磁波対策の提案もしている。梶田幸央EMCセンター長は「EV関連向けにも、従来のノウハウを生かせ

る」と話し、市場変化を捉えて自動車分野の成長を図る。また、EVチャンバーは航空機や船舶の駆動モーターシステムも測定可能なため、他分野の評価サービスへの展開も視野に入れていく考えだ。

